

再評価結果（平成21年度継続箇所）

担当課：道路局 有料道路課

担当課長名：上野 進一郎

事業名	東九州自動車道 小倉JCT～豊津		事業区分	高速自動車国道	事業主体	西日本高速道路(株)
起終点	自) 福岡県北九州市小倉南区堀越 至) 福岡県京都郡みやこ町下原			延長	2.4 km	
事業概要						
東九州自動車道は、九州縦貫道、九州横断道と一体となって高速道路ネットワークを形成し、九州地方の一体的な産業、経済、文化の交流発展に資する路線である。						
H9年度事業化		H8年度 都市計画決定		H11年度用地着手		H12年度工事着手
全体事業費	1,545億円			事業進捗率	52%	供用済延長 8 km
計画交通量	約9,800台/日 ~ 約16,700台/日					
費用対効果 分析結果 (有料)	B/C (事業全体) 1.9 (残事業) 4.0	総費用 (残事業)/(事業全体) 754/1,628億円 事業費：604/1,477億円 維持管理費：150/150億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 3,031/3,031億円 走行時間短縮便益：2,627/2,627億円 走行費用減少便益：280/280億円 交通事故減少便益：124/124億円	基準年 平成20年		
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施						
交通量変動 : B/C = 4.4 (交通量 +10%) B/C = 3.6 (交通量 -10%)						
事業費変動 : B/C = 4.4 (事業費 -10%) B/C = 3.7 (事業費 +10%)						
事業期間変動 : B/C = 4.2 (事業期間 -1年) B/C = 3.8 (事業期間 +1年)						
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保(並行区間等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する又は新たなバス路線が期待できる) 国土・地域ネットワークの構築(当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する) 個性ある地域の形成(新規整備の公共公益施設へ直結する道路である) 他17項目に該当 						
関係する地方公共団体等の意見						
本区間の整備は、自動車・ハイテク産業の進出の相次ぐ沿線地域において、都市間の広域的な地域連携軸を形成し、沿線地域の経済・産業の発展に寄与する重要な路線であることから、福岡県知事・大分県知事をはじめ、各期成会、同盟会より整備促進の要望を受けている。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
平成17年センサスデータをベースにした新しい将来交通需要見直し、費用便益分析マニュアルの改定がなされた。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
苅田北九州空港～行橋：用地取得がほぼ完了し、本線工事が本格化してきている。						
行橋～豊津開通：用地取得が進んでおり、工事着手に向けて関係機関と協議調整中である。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
苅田北九州空港～行橋：供用予定は平成25年度であり、現在、用地取得がほぼ完了し、本線工事が本格化してきている。						
行橋～豊津：供用予定は平成26年度であり、現在、用地取得が進んでおり、工事着手に向けて関係機関と協議調整中である。						
施設の構造や工法の変更等						
新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わっておらず、事業実施の目的が立っている。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。